

Cub Cadet[®]

自走式芝刈機
SC500hw

取扱説明書

ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みください



SHINGU
SHOKO

目 次

1. 安全に運転するために	1
1-1 子供の保護	1
1-2 傾斜地での運転	1
1-3 準備	1
1-4 運転	1
1-5 メンテナンス・補完	2
2. 芝刈機をよりよく理解するために	3
2-1 はじめに	3
2-2 各部の名称	3
3. 警告表示のマークについて	4
4. 組立	6
5. 運転「安全に運転するために」	10
5-1 運転前の点検	10
5-2 始動・運転	10
① エンジン及びブレード	10
② 走行	11
5-3 停止	11
5-4 ハンドルの高さ調節	11
5-5 刈高調節	11
5-6 芝刈りの要領	12
5-7 グラスバッグ	12
6. 点検・整備	13
6-1 定期点検	13
① エンジンオイルの交換	13
② ブレードの点検	14
③ ドライブベルトの点検	15
④ エアクリナーの点検	15
⑤ エンジン汚れの点検	15
⑥ デッキの点検	15
6-2 毎年の点検（シーズン終了後）	15
① エアクリナー	15
② エンジンオイル	15
③ スパークプラグ	15
④ 燃料フィルター	15
6-3 保管	16
7. 故障時の対応	17
8. 定期点検表	18

1. 安全に運転するために

▲警告

☆ この芝刈機は身体や周囲の物に損害を与えるものを飛散させたり、手や脚を切断する恐れがあります。以下の安全事項の確認を怠ると、重傷を負ったり死に至る危険性が生じますので、この取扱説明書をよく読み不明な点があれば販売店までお問い合わせください。

1-1 子供の保護

- 運転する人が、子供の存在に注意を怠ると悲惨な事故を起こしかねません。
 - 動く芝刈機は、しばしば子供の関心を引き付けます。
 - 子供たちが芝刈り現場に残っていないか、最後まで見届けてください。
1. 子供を芝刈り現場に近づけないでください。もし芝刈り現場に子供が入ってきたら、すぐに芝刈機を止めて、ブレードも止めてください。芝刈り現場から子供がいなくなるまでは芝刈りをしないでください。
 2. 適切な判断が下せて、信頼のできる大人が芝刈機を運転してください。
 3. 子供に芝刈機を運転させてはいけません。
 4. 芝刈機を後退させながら芝を刈ってはいけません。
 5. 見えない曲がり角や、灌木や木の周りは視界が悪いので特に注意を払ってください。

1-2 傾斜地での運転

1. 傾斜地での走行は、操縦が不安定になったり、転倒する危険が非常に多く、大怪我や死亡事故の原因となりますから最大の注意を払ってください。
2. 15度以上の傾斜地ではエンジンが故障しますから芝刈機を使用してはいけません。
3. 特にグラスバッグや他のアタッチメントを取り付けているときは、安定性が悪くなる場合がありますから十分注意してください。
4. 斜面の上下方向に向かって前進、後退しながら芝刈り作業をしないでください。傾斜地で方向転換する時は特別に注意してください。急な斜面や安定性が悪く滑りやすい場所では芝刈りしてはいけません。

1-3 準備

1. 取扱説明書をよく読み、エンジンを始動する前に操縦装置の位置を覚え、操作方法を練習してください。
2. ガソリンの取扱いには十分注意を払い、下記の事項に従ってください。
3. エンジンが動いている間は、燃料タンクのキャップを絶対に開けてはいけません。

4. 給油は屋外でエンジンを停止し、エンジンが完全に冷えてから行ってください
5. ガソリンがこぼれたら、すぐに周りをきれいに拭いてください。
6. ガソリンは規格に合ったガソリン用の容器に入れ、通気のよい広い空間のある、子供の手の届かない屋内の冷暗所に保管してください。
7. ブレードにはじきとばされて周囲に危険を及ぼす原因となるような棒切れ、針金、あき缶や石等の障害物は、芝刈りの現場から事前に取り除いておいてください。
8. グラスバッグ、サイドシュート、ブレードレバー等の安全装置が正しく機能する位置に取り付けられているか確認しておいてください。
9. 人やペットを芝刈機、芝刈現場に近づけないでください。もし芝刈り現場に、人やペットが入ってきたらすぐに芝刈機を止めて、ブレードも止めてください。
10. 芝刈機本体やエンジンに貼ってある、警告や注意事項のラベルに注意を払ってください。
11. 芝刈機本体やエンジンに貼ってある、警告や注意事項のラベルに注意を払ってください。
12. 芝刈り作業をする時は、保護メガネをかけ、必ず長ズボンや安全靴といった保護服を着用して、あなた自身を危険から守ってください。絶対にサンダルや裸足で作業してはいけません。
13. エンジンとブレードの停止方法を憶えて、緊急時に素早く対処できるよう練習してください。
14. 芝刈り機をトラックに積み込んだり、おろすときは特に注意してください。
15. グラスバッグを使用する時は、グラスバッグを構成する部品を時々点検し、安全の確保上、摩耗したり、交換を必要とするような古くなったり、弱くなったりした部品は、新しい部品と交換してください。

1-4 運転

1. ブレードが回転しているデッキの下部や稼働している部分には手や脚を近づけないでください。
2. 道路を横切るとき及び道路の近くや、交通のあるところで芝刈りをする時は通行する人や車に十分注意を払ってください

3. 砂利道や道路、物が跳ばされるような場所ではエンジンを停止して通過します。
4. 芝刈りは日中でも夜でも、十分に照明が確保できる場所で行ってください。
5. 伸びすぎた芝を刈る場合は刈高を最高に調節してください。
6. 飲酒後、医薬品の服用後は絶対に芝刈機を運転してはいけません。
7. 芝刈機が障害物に当たったら、すぐにエンジンを止め、ブレードを停止させてから、破損していたり、異常な個所がないか芝刈機を检查してください。もし破損していたら修理をしてから芝刈機を使用してください。
8. 溝の端など、落下の危険性のある場所や土手では足場が悪く、バランスを崩しやすいので芝刈りをしないでください。
9. 草に隠れた危険物や障害物、穴等に常に注意を払い、溝や崩壊物、排水渠、フェンス、突き出た物等には近づかないでください。
10. 芝が濡れているときは作業をしないでください。
11. ハンドルをしっかり持って足元に注意して歩き、走ってはいけません。滑るとけがをする危険があります。
12. エンジンが動いている時は芝刈機から離れてはいけません。芝刈機から離れるときは必ずエンジンを停止してください。
13. 芝刈機を掃除したり、点検・修理する時は、エンジンを止めてブレードや回転部分が停止してから行ってください。不意にエンジンが始動しないようにプラグキャップをスパークプラグから抜いてください。
14. 手や指が切断されるのを防ぐため、デッキやブレードに草や葉などが詰まったときは、エンジンを停止し、ブレードが完全に止まったのを確認してから取り除いてください。
15. グラスバッグを外すときや、グラスバッグの中にたまった芝を捨てる時は、エンジンを停止してください。
16. グラスバッグやサイドシュートを取り付けずに作業しないでください。
17. 芝の排出口は絶対に人や通りがかった車、建物の窓、ドア等の方へ向けてはいけません。
18. 方向転換する時は必ずスピードを緩めてください。
19. 道路を横切るとき及び道路の近くや、交通のあるところで芝刈りをする時は通行する人や車に十分注意を払ってください。
20. 室内、および換気の悪い場所ではエンジンを動かしてはいけません。排気ガスには無臭で、死に至らしめる一酸化炭素が含まれています。

1-5 メンテナンス・補完

1. ガソリンは規格に合ったガソリン用の容器に入れ、通気のよい広い空間のある子供の手の届かない屋内の冷暗所に保管してください。
2. 狭い場所で芝刈り機を保管するときは、エンジンが十分に冷えてから保管してください。
3. 芝刈り機やガソリンの入った容器は下記のような場所で保管してはいけません。
 - 裸火のある場所
 - 温水器などのスイッチのスパークが出る場所
 - 高温な場所
 - 乾燥機やガス器具を使用している場所
 - その他の引火や着火の危険がある場所
4. 火災防止や焼付き防止のため、芝刈機やエンジンに付着した草や葉、こぼれた燃料や付けすぎたグリスを除去してください。
5. エンジンの燃料タンクから燃料を空ける時は、エンジンが冷えてから、屋外の火気のない場所で規格品の容器に入れてください。
6. 全てのボルト、特にブレードスクリュー、ナット、スクリュー類を点検し、緩んでいればしっかりと締め付けてください。
7. 室内および換気の悪い場所ではエンジンを動かしてはいけません。排気ガスには無臭で死に至らしめる一酸化炭素が含まれています。
8. 芝刈機の点検、整備を行う時は、必ずエンジンが完全に停止して冷えた後、不意に始動するのを防ぐためスパークプラグからプラグコードを外してください。
9. エンジンのガバナースプリングに手を加えたり交換したりして販売時に調整されているスピードを変えてはいけません。又エンジンの最高回転数を上げてはいけません。
10. グラスバッグが傷んでないか定期的に点検し、縫い目がゆるんだり、裂けたりしていたら交換します。またアダプターが破損したら交換してください。
11. ブレードは鋭く危険です。ブレードを取扱う時はブレードに布を巻くか、丈夫な保護手袋を着用してください。
12. エンジンのスパークプラグを外して、火花のテストをしてはいけません。火花が燃料に引火する危険があります。
13. 年に一度シーズンが終る毎に、販売店で点検、整備をうけてください。
14. 補用部品は Cub Cadet の純正部品を使用してください。

2. 芝刈機をよりよく理解するために

2-1 はじめに

このたびは CubCadet 芝刈機をお買上げいただき誠にありがとうございます。

この説明書は芝刈機の正しい取扱い方法と、簡単な点検と手入れについて説明してあります。

運転する前に必ずお読みいただき、正しく安全な取扱いをお願いします。

本機の品質には万全を期しておりますが、作動の不具合や部品などに不備な点がありましたら、当社営業所、販売店、又は協力サービス工場へご連絡ください。

- この取扱説明書はいつも手元に保管して繰り返しお読みください
- 取扱説明書に記載された使用方法及び保守点検を守らない場合は、本機の故障や事故などの原因となり、機械の寿命を縮めるばかりでなく作業の安全を損ないます。

お問い合わせ……本機のモデルNo.とシリアルNo.は、エンジン後方の排出部に表示してあります。下記の記入欄に御買い求めになった芝刈機のモデルNo.とシリアルNo.、購入年月日、購入店名を記録して頂き、お問い合わせ、部品の購入、修理依頼の際はシリアルNo.とモデルNo.を必ずご連絡ください。

モデルNo.			
シリアルNo.			
購入年月日	年	月	日
購入店名			

2-2 各部の名称

CubCadet自走式芝刈機SC500hwの各部の名称を次のページに示します。芝刈機を操作する人は実際の操作に入る前にこの図をよく見て、芝刈機の運転や操作に必要な箇所を確認してください。

この「CubCadet自走式芝刈機」の取扱説明書は事前によく理解しておき、作業に入った後も常に手元において、実際の操作の参考にしてください。



付属品

取扱説明書	1 式
保証書	1 部
サイドシュート	1 個
グラスバッグ	1 個
グラスバッグフレーム	1 個
クリップ	2 個
エンジンオイル	1 パック

3. 警告表示のマークについて

説明を分かりやすくするため、本機、取扱説明書には下記のようなマークを使用しています。

	<p>本機をご使用になる前に、必ず取扱説明書をよくお読みください。</p>
	<p>正しい操作のための注意事項です。ここに説明された事項については、間違った取扱をすると事故や機械の故障の原因にもなりますので、必ず守ってください。</p>
	<p>特に重要な取扱上の警告事項です。ここに説明された事項については、間違った取扱をすると死に至る重大な事故や負傷の原因にもなりますので、必ず守ってください。</p>
	<p>作業時には保護メガネ、防音保護具（耳栓など）、保安帽を必ず着用してください。</p>
	<p>作業時または点検時にブレードを扱うときには、必ず保護手袋を着用してください。</p>
	<p>作業時には滑り止めのついた丈夫な保護長靴を必ず着用してください。</p>
	<p>引火しやすいガソリンを使用していますので、引火の恐れのある場所では給油、燃料の保管、作業などを行わないでください。</p>
	<p>エンジンの排気ガスには人体に有害な一酸化炭素が含まれています。直接吸い込んだり、換気の悪いところでの使用はやめてください。</p>
	<p>エンジン本体やマフラーは高温になりますので直接触れるとやけどを負うことがあります。</p>
	<p>回転部分に手をふれないように注意してください。 また、投入口の中に手を入れないよう注意してください。</p>
	<p>本機が動いている間は、稼動部に手を触れてはいけません。又、カバーなどを外してはいけません。</p>
	<p>作業は必ず一人で行なってください。作業員から半径 5m 以内に人やペットを入れてはいけません。又、運転中の本機のそばを離れてはいけません。</p>
	<p>オイル漏れ、ガソリン漏れがあった場合は、本機を運転してはいけません。</p>

4. 諸元表

エンジン	
排気量	159cc
オイルタンク容量	600 ml
標準エンジンオイル	10W-30
燃料タンク容量	1 リットル
スパークプラグ	TORCH F5RTC (NGK BPR5ES)

本体	
重量	40kg
寸法	長さ 160cm (最大)
	幅 57cm
	高さ 104cm (最大)
走行	自走式 マイスピードドライブシステム
ブレード長	21 インチ (53cm)
刈高調節	6 段階調節可能 31~95mm
ハンドル	高さ 3 段階調整可能 ソフトタッチグリップ
グラスバック	標準装備 50 リットル

5. 消耗品リスト

品名	発注番号
スパークプラグ NGK BPR5ES (TORCH F5RTC と同様品)	780044
エアクリーナーエレメント	970827
21" ブレード	970804
グラスバッグ	970813
燃料フィルター	970826
タンクキャップ Asy	970828
サイドシュート	970818
V-ベルト 31.25	970812

6. 組立

⚠ 注意

組立は傾きのない平坦な場所で行ってください。

- 芝刈機を箱から出します。梱包のために付いている、ダンボール、タグ、ビニール等を外します。芝刈機はハンドルが折りたたんであります。エンジン後方のハンドル根元に仮止めされているノブとボルトを外してください。(図 4-1)



(図 4-1)

- ハンドル根元を固定しているノブ付ボルトを2箇所外してください。(図4-3、4-4)



(図 4-3)



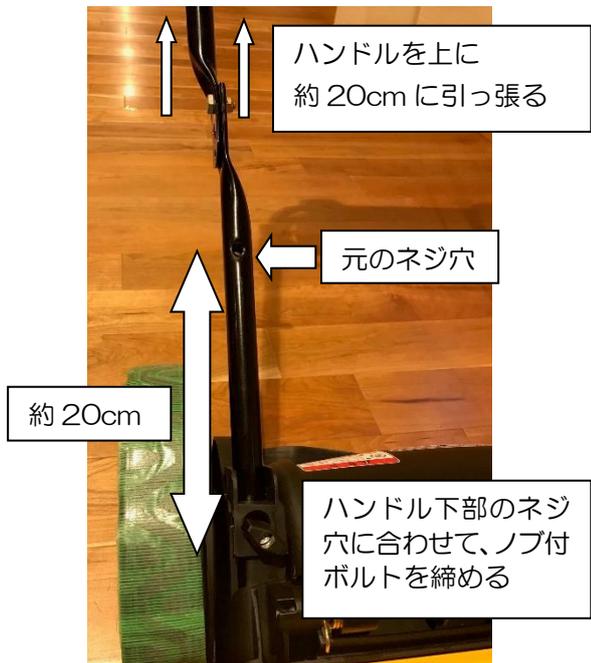
(図 4-4)

- ハンドルを起こします。その際にケーブルを挟まないように注意してください。(図 4-2)



(図 4-2)

- ノブ付ボルトを2箇所外すとハンドルが動くようになります。ハンドルを上約20cm引っ張っていただき、ハンドル下部にありますネジ穴に合わせて再びノブ付ボルトを締め込みます。ハンドルが抜けまい、引っ張り過ぎに注意してください。(図4-5)



(図4-5)

- 最初に外したノブとボルトをハンドルの上下の継ぎ目に取り付けます。穴が3箇所あり、取り付け位置によってハンドルの高さが変わりますので、使いやすい位置に合わせて取り付けてください。標準は一番下の穴になります。(図4-6)



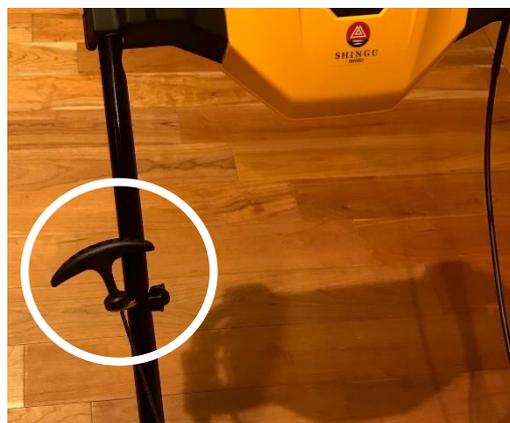
(図4-6)

- 本体に向かって左側のハンドルにフックとノブがあります。フックが外側になるように取り付け、ノブを緩めた状態で仮止めしておきます。その後、ブレードレバーを握りながらスターターハンドルを引っ張ってください。(図4-7)



(図4-7)

- 引っ張ったスターターハンドルの根元あたりのロープをフックに入れ、スターターハンドルがフックに引っかかるようにノブを締め、フックを固定します。(図4-8)



(図4-8)

- 本体に向かって右側のハンドルと2本のケーブルを付属品のクリップで2箇所固定します。(図4-9)



(図4-9)

＜グラスバッグを使用する場合＞

- グラスバッグの中にフレームを入れます。その際に取手はバッグの外に出るようにします。グラスバッグの入口付近にあるプラスチックの接続フックを内側からフレームに固定します。あまり伸びませんがグラスバッグを伸ばしながら取り付けるイメージです。(図4-10、4-11、4-12、4-13)



(図4-10)



(図4-11)



(図4-12)



(図4-13)

- 本体後方の排出口を持ち上げて、グラスバッグを奥までしっかり差し込みます。図 4-13 の下部にある突起が左右にありますので、これを図 4-3 にあるノブ付ボルトの差込穴より本体側にある凹部分にはめ込みます。排出口を下げて、グラスバッグがしっかりと固定されているか確認してください。(図 4-14)



(図 4-14)

＜サイドシュートを使用する場合＞

- 付属品のサイドシュートを本体に向かって左側、エンジン下部のデッキにある黒いカバーを持ち上げて、その下に入れ込みます。その際にサイドシュートの爪 2箇所をピンに引っ掛けてください。(図 4-15) カバーを下げて、サイドシュートがしっかりと固定されているか確認してください。(図 4-16) また、サイドシュート使用時は排出方向に家や車、人がいないことを確認してください。



(図 4-15)



(図 4-16)

- 燃料タンクキャップは最初に付いているのは簡易的なゴム製のもので、これを取り外し、プラスチック製のキャップに付け替えてください。(図 4-17、4-18)



(図 4-17)



(図 4-18)

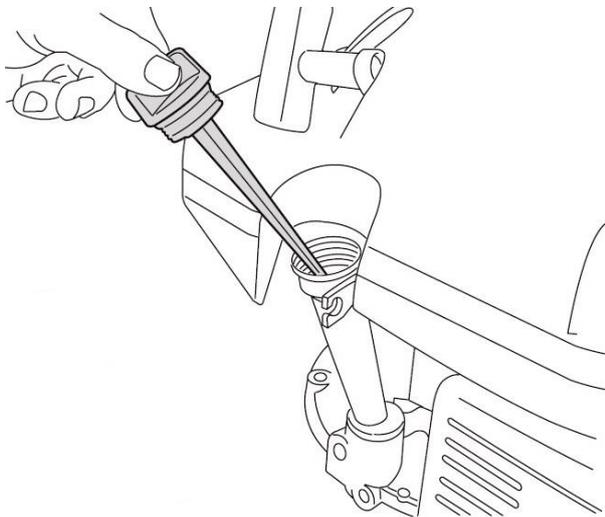
7. 運転「安全に運転するために」

- 初めてエンジンを始動する前にエンジンを停止する方法を覚えてください。
- エンジンとブレードはブレードレバーを放すと停止します。
- 芝刈機の走行はコントロールレバーを放すと停止します。

7-1 運転前の点検

運転前に下記の項目を点検し、必要に応じて整備してください。

- すべてのガード、グラスバッグ、アダプター、サイドシュートなどが適切に取り付けられ、締め付けられていますか。
- ブレードレバーおよびコントロールレバーが自由に動きますか。
- 刈高調節は適切な位置にセットされていますか。(11ページ参照)
- 芝刈機を使用する前には、必ずエンジンオイルのレベルを点検し、足りなければ12ページの「エンジンオイルの交換」に従ってAPI規格SF級以上の10W-30番のエンジンオイルを補充してください。当製品は出荷時にエンジンオイルは入っておりません。エンジンオイルのタンク容量は約600mlです。(図5-1)



(図5-1)

1. 芝刈機を屋外に出してから新鮮なレギュラーガソリンを燃料タンクに入れます。給油後、燃料タンクキャップをしっかりと締め付けます。
2. デッキやエンジンの外観を点検し、こぼれた燃料、油、土、ゴミ、ホコリ、草などの付着物を取り除きます。オーバーヒート防止のため、特に冷却風取入口のカバーに詰まっているゴミやシリンダーヘッドの冷却フィンの回りのゴミを取り除いてください。

7-2 始動・運転

始動は背の高い草などの抵抗の無いブレードが自由に回転する平らな場所を選んでください。

① エンジン及びブレード

1. 本体後方に立ち、コントロールレバーとブレードレバーを握ります。
2. 右足で芝刈機の後車輪をしっかり押えつけ、スターターハンドルを抵抗(クランク圧)を感じるまでゆっくりと引きます。そこからスターターハンドルを勢い良く引きます。(図5-2)



(図5-2)

エンジンを止める時はブレードレバーを放します。

3. エンジンが始動したらエンジンの回転がスムーズになるまで暖機運転を行います。当製品はオートチョークのため、チョークレバーやプライミングポンプなどは付いておりません。

⚠ 注意

エンジン始動と同時にブレードは回転します。足元に十分注意してください。芝刈機を使用する際は、飛散物などに備えて、必ず保護メガネを着用してください。

② 走行

1. コントロールレバーとブレードレバーを握ったままエンジンを始動し、そのまま好みの速さで歩き始めてください。コントロールレバーが自然と前方に押し出され、歩くペースに合わせて芝刈機が動き始めます。当製品は自走式ですが変速レバーや走行クラッチなどはなく、ユーザーの歩くスピードに合わせて芝刈機も動く、マイルドドライブシステムが搭載されております。

7-3 停止

1. ブレードレバーを放すとエンジンとブレードが停止します。
2. コントロールレバーを前方に押し出すのを止めると走行は停止します。通常、ユーザーが歩くのを止めると自然と走行は停止します。

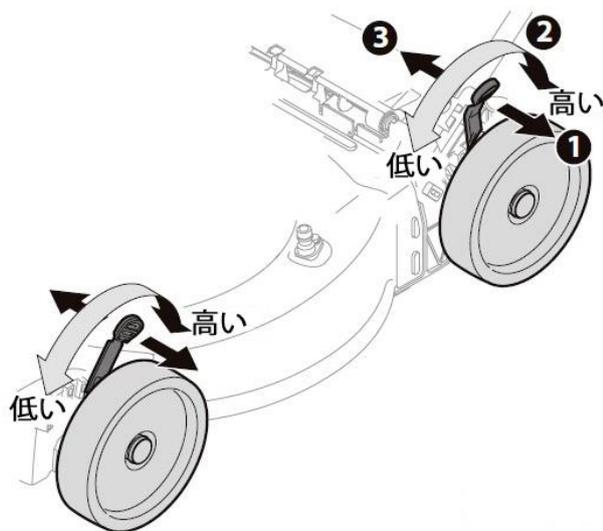
7-4 ハンドルの高さ調節

1. 図4-5、図4-6（7ページ）のボルトとノブの取り付け位置により3段階の調整が可能です。

7-5 刈高調節

刈高調節をするときには、必ずエンジンを停止して、ブレードが完全に止まるまで待ってください。

1. 本体に向かって右側の車輪の内側にある刈高調節レバー2箇所を動かして、希望する高さにセットします。（図5-3）



(図5-3)



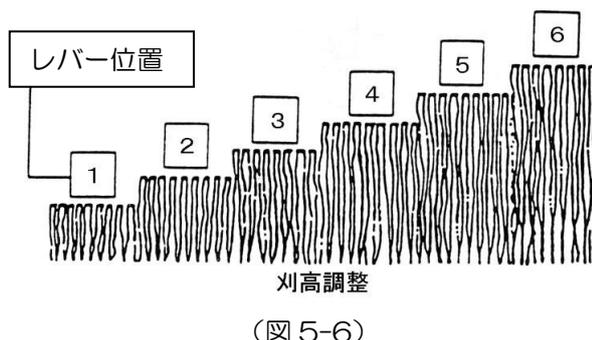
(図5-4)

2. 高さ調整レバー②は車輪側①に動かすと、前後に動くようになります。1が最も低く、6が最も高い位置になります。好みの高さにレバーを持ってきたら、数字の書いてある突起にはめるようにレバーを本体側③に戻し固定します。（図5-3、図5-5）



(図5-5)

3. 2輪とも同じ高さにセットしてください。刈高調節は図のように6段階に調節できます。(図5-6)



7-6 芝刈りの要領

- 背丈の高い芝や密集した芝を刈る前に、芝の少ないところでブレードを回します。これはブレードを早くフル回転にするためです。
- 芝の状態に合うように、走行速度を変えてください。
- カuttingデッキはどんな状態の時でも水平を保ってください。
- 一度に芝の長さの3分の1以上は刈らないでください。
- 短く刈りたいときには数日後にもう一度刈ります。短く刈りすぎると新しい葉の発育に多くのエネルギーを必要とするため、健康な根の張りを少なくし、根やけを起こします。
- 長く成長させると、芝の低い部分が影になり、変色します。
- 天気の良い期間は芝がより早く成長するので、スムーズに芝刈りができるように、芝刈りの間隔を短くします。
- 乾燥した肥料が散布されている場所では肥料が吸い込まれるので、芝を刈らないでください。
- 芝がスムーズに刈れるように、芝刈りをするたびに芝刈機の進行パターンを変えてください。
- 細かい芝の切れ端は、芝の成長を助ける栄養分を土壌に与えます。しかし芝の切れ端が多量すぎるとサッチが堆積してマット状となり、酸素供給と水分の保持を妨げます。
- サッチによる芝の異常を防ぐには芝の吸引と袋詰めが望ましいです。時々芝の栄養となる、芝の切れ端をばらまくことも必要です。

7-7 グラスバッグ

1. グラスバッグの取り付けに関しては、8～9ページを参照してください。
2. グラスバッグが一杯になったら必ずエンジンを停止してから、グラスバッグの取手を持ちながら本体排出口を持ち上げバッグを外します。芝の排出口は本体接続部の1箇所のみなので、そこから芝を排出してください。(図5-7)



(図5-7)

⚠ 注意

作業中に異物に接触した場合は、エンジンを止めてスパークプラグを外して本体を点検してください。
作業中に異常な振動が起きたら本体のどこかが破損している可能性がありますので、点検してください。

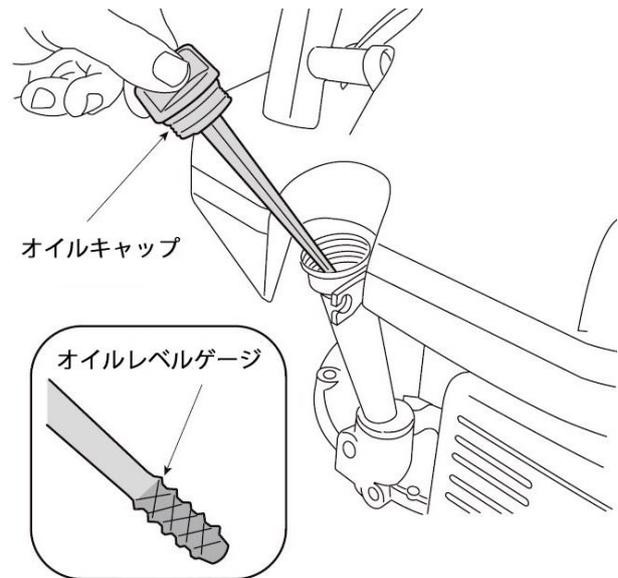
8. 点検・整備

- ◇ 芝刈機の性能を維持するために部品はCub Cadet純正部品を使用してください。部品及び整備の方法について詳しくは販売店におたずねください。
- ◇ 部品注文の際は、必ずモデル名とシリアルナンバーをお知らせください。
- ◇ 芝刈機の点検・整備をする場合は、必ずプラグコードをスパークプラグから外してください。これは不意にエンジンが始動するのを防止するためです。
- ◇ 芝刈機の底部の点検・整備をするために、芝刈機を傾ける場合はマフラーが下側になるように傾けてください。これはオイルがエアクリナーに付着して、始動困難になることを防ぐためです。
- ◇ 5分以上エンジンを傾けないでください。
- ◇ 傾けた状態でエンジンを運転しないでください。

8-1 定期点検

① エンジンオイルの交換

- オイル交換は最初は5時間運転後に行ない、その後は、50時間運転毎に行ってください。
 - エンジンが冷えてから、燃料を空にして、更にキャブレターの燃料も空にします。エンジンが熱いうちに作業を行うとガソリンに引火して、火災の原因となります。
1. エンジンオイル注入口下部にありますドレインプラグを緩めるとエンジンオイルが流れ出てきますから空き缶などで受けます。(図6-1)
 2. オイルが排出されたら、オイル注入口からエンジンオイルを適量入れます。オイルの量は多すぎてもいけません。ゲージを確認し、正しい量であるか確認してください。
 3. オイルが排出されたら、オイル注入口からエンジンオイル(10W-30)を適量入れます。オイルの量は多すぎてもいけません。ゲージを確認し、正しい量であるか確認してください(図6-2)。



(図6-2)



(図6-1)

② ブレードの点検

⚠注意

整備を行う時はエンジンを停止し、スパークプラグからプラグコードを外します。ブレードおよびその周辺の整備をする時は、厚手の保護手袋を着用してください。ブレードは非常に鋭利なのでけがをする恐れがあります。

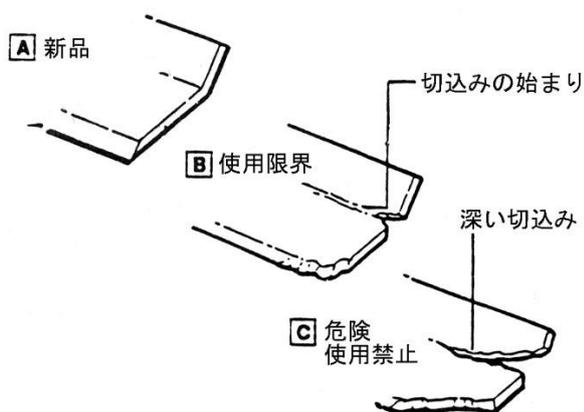
1. スパークプラグからプラグコードを外します。
2. 芝刈機をマフラーを下側にして横に倒します。
3. ブレード取付けスクリューに緩みがないかを点検します。
4. ブレードが鋭いか、また、摩耗損傷が無いか目視点検します。(図6-3)



(図6-3)

I ブレードの交換時期

1. 時々、ブレードの締め付け状態や刃の状態について点検します。(図6-4)



(図6-4)

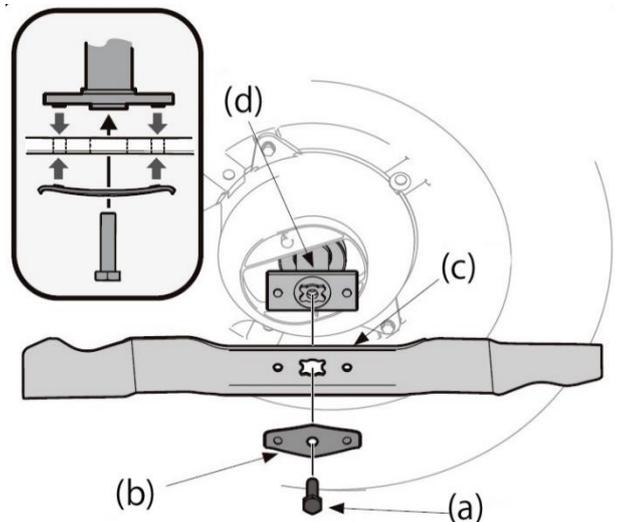
2. ブレードに傷、欠け、曲り、バランス不良、ひび、切込みなどが発生したらすぐにブレードを交換してください。

⚠警告

図のCのように磨耗したブレードは使用してはいけません。先端が飛び散り、怪我をしたり、物を壊します。

II ブレードの研磨

- 刃先が鈍くなって切れ味が悪くなると、芝の切り口がギザギザになり、芝刈り後すぐに葉の先が茶色に変色したりします。
1. スパークプラグからプラグコードを外します。
 2. 芝刈機をマフラーを下側にして横に倒します。キャプテターやエアクリーナーを下向きに倒しては行けません。
 3. (a)のブレード取付ボルトを緩め、ボルトと(b)のブレードバルを外し、(c)のブレードを(d)のブレードアダプターから外します。(図6-5)



(図6-5)

4. グラインダーで22° ~ 28° 位に研磨します。刃の長さは端から約 15cm にします。元の刃の位置以上に研磨しないでください。
5. 研磨後はブレードの静バランスを必ず点検してください。バランスが悪いと激しい振動が発生しますから、バランスが悪いときはブレードの端面を削って修正してください。
6. ブレードを取り付けます。これらの部品は必ず純正部品を使用してください。

⚠注意

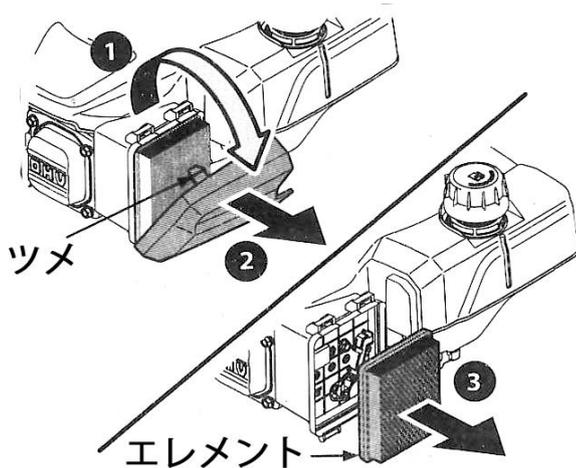
ブレードの点検・交換作業をする前に必ずエンジンを停止し、スパークプラグからプラグコードを外してください。ブレードの点検・交換作業をする時は必ず保護手袋を着用してください。ブレードでけがをする恐れがあります。

③ ドライブベルトの点検

ドライブベルトを点検するには製品の分解が必要になります。芝刈機の走行に不具合が生じた場合などは販売店までご相談ください。

④ エアクリーナーの点検

25時間ごとにエアフィルターを点検します。フィルターカバーのツメを押し、カバーを開けるとエレメントを取り出せます。エレメント(P/N 970827)は洗浄できないので、固い部分を叩いて汚れを落としてください。(図 6-6)



(図 6-6)

⑤ エンジン汚れの点検

エンジン外装やマフラー周りなどにゴミが付着、堆積していないか点検します。

⑥ デッキの点検

デッキの裏側は使用後に毎回点検し、芝やゴミが付着していれば落としてください。

8-2 毎年の点検 (シーズン終了後)

① エアクリーナー

シーズンごと、もしくは100時間使用ごとにエアクリーナーのエレメント(P/N 970827)は交換してください。

埃っぽい使用環境などの場合、もう少し早く交換してください。

② エンジンオイル

シーズンごと、もしくは50時間使用ごとにエンジンオイルは交換してください。

③ スパークプラグ

シーズンごと、もしくは25時間ごとにスパークプラグを点検します。

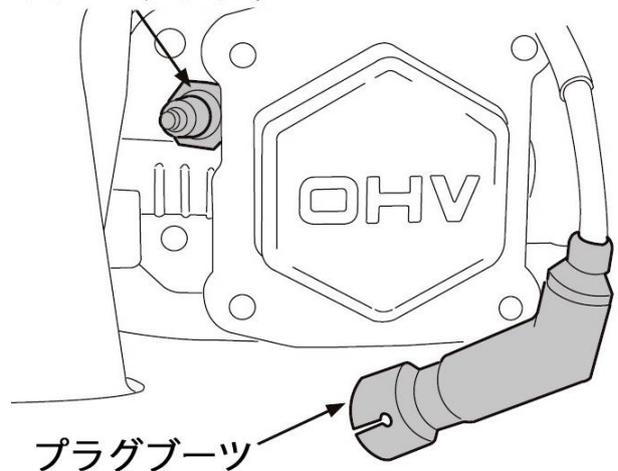
プラグキャップを外し、プラグレンチ(平径21mm)を使用してスパークプラグを取り外します。

電極間隙は0.8mm程度で、堆積物などがある場合はワイヤーブラシで掃除してください。

割れなどがあったり劣化がひどい場合、もしくは100時間使用ごとに交換してください。

交換の際は「NGK BPR5ES (P/N 780044)、または同等品」を平径21mmのプラグレンチで取り付けてください。(図 6-7)

スパークプラグ

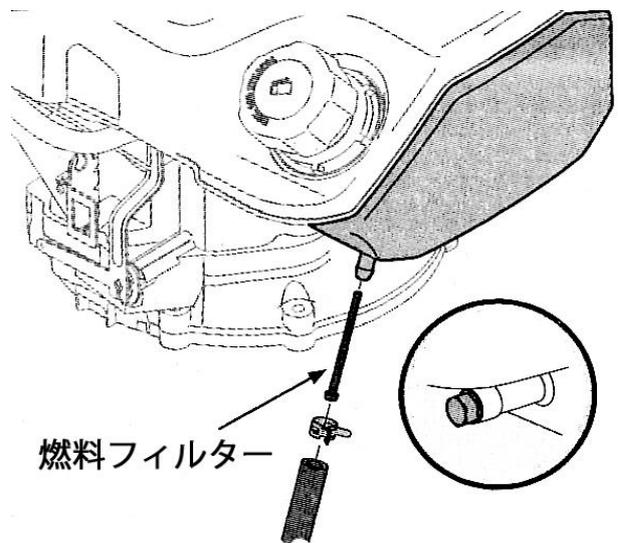


(図 6-7)

④ 燃料フィルター

シーズンごと、もしくは100時間使用ごとに燃料フィルターは交換してください。

燃料フィルター(P/N 970826)は燃料タンク下部のホース接続部に内蔵されています。(図 6-8)



(図 6-8)

8-3 保管

- シーズン終了後芝刈機を下記の要領で保管します。
 1. 燃料タンクから燃料を抜きます。エンジンを始動してキャブレター内の燃料を使いきります。
 2. スパークプラグからプラグコードを外します。
 3. 水洗いをする時は、マフラーの排気口や冷却風の吸気口などの開口部に水が浸入しない様にテープなどで塞ぎます。
 4. 本体を後ろに倒してデッキの下部をきれいに清掃します。本体をキャブレターやスパークプラグが下向きになる方向に倒してはいけません。堆積した草をヘラやブラシで完全に落としてください。
 5. ハンドル締付けノブをゆるめて、コントロールケーブルが損傷しないように注意しながらハンドルを折りたたみます。
 6. 雨水がかからず、湿気の無い乾燥した場所に保管します。

9. 故障時の対応

故障の状態	原因	対処
スターターを引いてもエンジンがかからない	燃料が入っていない	給油する
	プラグコードが外れている	スパークプラグにプラグコードを付ける
エンジンが運転中に失速または停止する	ブレードレバーを放している または しっかり握っていない	運転中はブレードレバーをしっかりと握っててください
	燃料不足	給油する
	エアクリナーが汚れている	エアクリナーを清掃する
	スパークプラグが不良 または 電極間隙が不適切	スパークプラグを交換 または 電極間隙を調整
	燃料系統に水や異物が混入している または 燃料が古い	燃料系統を洗浄する
エンジンの力がない	エアクリナーが汚れている	エアクリナーを清掃または交換する
	スパークプラグが不良 または 電極間隙が不適切	スパークプラグを交換 または 電極間隙を調整
	燃料系統に水や異物が混入している または 燃料が古い	燃料系統を洗浄する
異常な振動がある	ブレードが破損している または バランスが取れていない	ブレードを保守する
	ブレードの取付けがゆるい	締め付ける
	ベルトが摩耗 または 損傷している	ベルトを交換する
走行しない	ベルトが擦り減っている	ベルトを交換する
芝がきれいに刈れない	刈高が高すぎる または 低すぎる	刈高を調節する
	走行速度が速すぎる	作業速度を落とす
	ブレードの刃が鈍い または 損傷している	ブレードを研磨 または 交換する
草の排出不良	走行速度が速すぎる	変速レバーを操作して速度を落とす
	芝が濡れている	芝が乾いてから刈る
	ブレードが破損している	ブレードを点検し交換する
	刈られた芝や破片がデッキの内側に堆積している	デッキを清掃する
	正規のブレードが取り付けられていない	CubCadet 純正のブレードを取り付ける
	ブレードが正しく取り付けられていない	ブレードを適切に取り付ける
油漏れ	エンジン周りが油で漏れている	販売店に連絡する
		ドレインプラグを点検しゆるんでいれば締める
		オイルレベルゲージやオイルフィルターがしっかりと正しく取り付けられているか点検する

10. 定期点検表

点検箇所	内容	参照ページ	毎回	5時間	25時間	50時間	100時間	毎年
エンジンオイル	点検	13 ページ	○					
	交換	13 ページ		○*		○		○
エアクリナー	清掃または交換	15 ページ			○		○	○
スパークプラグ	交換	15 ページ					○	○
燃料フィルター	交換	15 ページ					○	
ブレード	点検し、研磨または交換	14 ページ	○					
デッキ	堆積した草を清掃	15 ページ	○					

* 初回交換

M E M O



株式会社 新宮商行

関東支社	〒270-2231 千葉県松戸市稔台 6-7-5	TEL 047(361)4701(代)
(機械本部)		
北海道営業所	〒047-0032 北海道小樽市稲穂 2-1-1	TEL 0134(24)1313(代)
東北営業所	〒963-0547 福島県郡山市喜久田町卸 1 丁目 37 番 1	TEL 024(959)6212(代)
東京営業所	〒270-2231 千葉県松戸市稔台 6-7-5	TEL 047(361)6831(代)
名古屋営業所	〒463-0022 名古屋市守山区八剣 1-303	TEL 052(768)1303(代)
大阪営業所	〒564-0062 大阪府吹田市垂水町 3-33-29	TEL 06(6380)0381(代)
高知出張所	〒781-5102 高知市大津甲 515-1	TEL 088(878)5400(代)
福岡営業所	〒812-0897 福岡市博多区半道橋 1-2-1	TEL 092(473)1501(代)